

4 豊かさ

——経済への配慮

社員が十分な教育を受け、多様性に富み、経済的にも安定してこそ、企業はより良い結果を生み出すことができる。第4の柱に豊かさを加えるということは、E・S・Gにとどまらず、豊かな社会の重要性を強調し、経済成長やイノベーション、富の共有を促す企業の役割に焦点を当てるということを意味する。

世界経済フォーラム白書「ステークホルダー資本主義を測定する」より

134

- 135 当グループの「豊かさ」(経済への配慮)に対する考え方
- 136 雇用と富の創出
- 138 お客さまへの価値の提供
- 150 地域と社会の活力向上支援
- 196 トラスト未来フォーラム
- 197 住友財団

当グループの「豊かさ」(経済への配慮)に対する考え方

本レポートが参考にする世界経済フォーラム白書「ステークホルダー資本主義を測定する－持続可能な価値創造のための共通指標と一貫した報告を目指して」では、「豊かさ」の定義について、国連事務総長の報告から以下の通り引用しています。

「豊かさ」の定義

- 適切な雇用、持続可能な生活、実質所得の増加、社会的保護、全ての人々の金融サービスへのアクセスを基盤とした経済成長
- 持続可能かつレジリエントなインフラ、定住、工業化、中小企業、エネルギー、テクノロジーへの投資を含む、共通価値を創出するためのイノベーションとビジネスモデルの変革
- 持続可能な生産と消費を基盤とした豊かさの共有と公平な成長

すなわち「豊かさ」とは、企業がいくら豊かになったかではなく、企業が社会をいかに豊かにしたかということにほかなりません。従って、ビジネスを通じた社会や経済への貢献はもちろんのこと、雇用や納税、コミュニティ投資や社会活動への参画、金融包摂といった取り組みがここに含まれます。具体的には、こうした考え方に基づき本パートにおいては、以下の三つの切り口で当グループの取り組みを報告しています。

雇用と富の創出	雇用の創出と経済の生産能力への投資を通じ、社員、株主、そしてより広い社会にとって大きな経済価値を創出します
お客さまへの価値の提供	変化するお客さまのニーズや要望に応える最適で革新的な商品・サービスのご提供により、お客さまや社会にとっての経済的・社会的価値をより広く創造します
地域と社会の活力向上支援	コミュニティ投資やその促進および社会活動への参画や、納税による政府のコミュニティへの資金提供支援(間接支援)により、当グループが業務を行う社会と地域の活力向上を図ります。また公平で包摂的な経済発展を通じたコミュニティの購買力向上に貢献します

関連するマテリアリティ

インパクトマテリアリティ

マテリアリティ	リスク/機会	主たるステークホルダー	主な対応
サステナビリティをテーマとしたビジネス機会の追求	機会	お客さま、地域社会	中核ビジネスを通じたポジティブインパクトの最大化 (個人)国民資産の形成 (法人)日本経済・企業の持続的成長/地方創生への貢献 (投資家)法人と個人との間で好循環をもたらすインベストメントチェーンへの貢献
金融包摂	機会	お客さま、行政、地域社会	金融弱者を対象とした商品・サービスのご提供、認知症顧客等の金融アクセスの確保、格差解消のための資産の社会還元や資金循環の仕組みづくり等
技術革新	リスク/機会	お客さま、社員	お客さまの利便性の向上(ITを活用した金融サービス開発、非対面チャネルの拡充等)、ITを活用した業務効率化、システムトラブルの予防、システムの新陳代謝の促進等

ガバナンス・経営基盤マテリアリティ

マテリアリティ	リスク/機会	主たるステークホルダー	主な対応
顧客本位/フィデューシャリー・デューティー	リスク/機会	お客さま	お客さまのベストパートナーを目指した取り組み、フィデューシャリー・デューティーに関する取り組み等
個人情報・顧客データ保護	リスク	お客さま	顧客保護等管理(顧客情報保護を含む)等
金融システムの安定性	リスク	行政、国際機関	質・量ともに充実した自己資本を確保し健全な財務基盤を強化

関連性の高いSDGs

